

本日の作品から...

観客賞エントリー作品13本(日本初公開・愛知初公開)

牛と一緒に7泊8日 Rolling Home with A Bull

牛が導く悟りへの道 イム・スルレ 監督

この映画の発売は2007年の冬の初めのタクシーの中だった。ラジオがキム・ドヨン作家の「牛と一緒に7泊8日」の出版について伝えていた。この小説を書いた作家がなんと江原道珍富という田舎に住む農家で一人暮らしの青年であることと、「牛を売りに行った男が牛を売ることができず、昔の恋人に会って3人で旅をする」という簡単なあらすじを聞いたとたんに興味をわいて、次の日すぐ小説を買って読んだ。

監督:イム・スルレ
制作:ヤン・ドンミュン
撮影:パク・ヨンジュン
原作:キム・ドヨン
◇キャスト
ソンホ/キム・ヨンピル
ヒョンス/コン・ヒョジン

◇イム・スルレ 監督



1960年生まれ。漢陽大学で英文学を専攻し、同大学院で映画学を学ぶ。その後、パリ8大学で映画学の修士号を取得。「スリー・フレンズ」(96)、「ワイキキ・ブラザーズ」(01)で評価を高め、長編3作目「私たちの生涯最高の瞬間」(07)は国内の映画賞を総なめし、あいち国際女性映画祭2008でも観客賞を受賞する。他作品に「もし、あなたなら〜6つの視線〜」(03)、「飛べ、ペンギン」(09)など。

小説は思った以上に魅力的であったが、映画化はちょっと難しいスタイルのものだった。この小説は文学的で観念的な表現が多く、ファンタジーと現実の境界が曖昧で映画として表現するのは難しいだろうし、表現したとしても制作費が多かかるとは比べ、大衆的な要素が少なかったからである。...

◇スタッフ

日本映画名作

武士の家計簿

2010年/129分/監督:森田芳光
江戸時代末期。代々加賀藩の財政に携わってきた猪山家の家計は、破産目前の窮地に陥っていた。そこで、跡取り息子・直之は「家計立て直し計画」を宣言。剣ではなく算盤で家族を守り抜く。つつましくも堅実に生きた三世代にわたる親子の絆と家族愛を森田芳光監督が描く。



名古屋観光ホテル

名古屋学芸大

キッズ・オールライト

ポップ・カルチャー世代の女性監督が描く新しい家族像

今年6月、ニューヨークで同姓同士の結婚を認める法案が可決された。同姓婚を認める州は全米で6つになったという。パパは男でママは女。そんな制度が崩れ、新しいタイプの家族がさらに増えていくのだろう。『キッズ・オールライト』はそんな新世代の到来を告げるホームドラマになっている。登場するのは同姓のパートナーと暮らすカップルで、ふたりのママが子供たちを育てている。精子バンクの力を借りて生まれたキッズはママたちの愛情をたっぷり受けている。思春期に入った彼らは考え始める。父親はどんな人?...

◇スタッフ
監督・脚本:リサ・チョロデンコ
制作:ゲイリー・ギルバート
脚本:スチュアート・ブルムバーグ
撮影:イゴール・ジャデュー=リロ
◇キャスト
ニック/アネット・ベニング
ジュルス/ジュリアン・ムーア
◇リサ・チョロデンコ監督



1964年、カリフォルニア州生まれ。コロンビア大学大学院映画学科でミロス・フォアマンに師事し、98年、自身の脚本による『ハイ・アート』で映画監督デビュー。サンダンス映画祭で脚本賞を受賞する。他監督作に『しあわせの法則』(02)、テレビドラマ『シックス・フィート・アンダー』『Lの世界』のエピソードも演出している。本作でゴールデン・グローブ賞の作品賞と主演女優賞を獲得した。

そして、遺伝子上の父と出会った姉弟は、初めて“父性”にふれ、それまで自分たちを縛っていた“母性”から解放される(母に禁じられたバイクにも乗る)。大らかな遺伝子提供者と出会うことで、母たちの心も揺れ、思わぬ危機の訪れも...

沈黙の春を生きて

『沈黙の春を生きて』に寄せる想い

坂田雅子 ドキュメンタリー映画監督

第一作『花はどこへいった』は、夫を枯葉剤の影響と思われる病で亡くした私の心からの慟哭だった。一人残された空虚から逃れよう、枯葉剤について知りたいというたたまれない思いから作った映画である。映画祭でも「未熟ではあるが」という但し書きをつけられるくらい、素人の映画だったが、私はこの映画の製作と上映を通じて徐々にいやされていった。

企画・監督:坂田雅子
製作:山上徹二郎
撮影:ビル・メガロス、山田武典、坂田雅子、ロバート・シーモン
編集:ジャン・ユンカーマン
◇坂田雅子監督



貧困と苦悩の中にありながら、家族をいたわり、微笑さえ忘れないベトナムの人々取材し、枯葉剤散布に至った歴史、ベトナム被害者の米国に対する訴訟などを調べていく中で、私はレイチェル・カーソンの『沈黙の春』に出会い、その内容と枯葉剤の類似に驚かされた。...

1948年、長野県生まれ。AFS交換留学生として米国メイン州の高校に学び、帰国後、京都大学文学部哲学科で社会学を専攻。1976年から2008年まで写真通信社に勤務および経営に携わる。2003年、夫グレッグ・デイビスの死をきっかけに枯葉剤についての映画製作を決意し、07年、『花はどこへいった』を発表。毎日ドキュメンタリー賞、パリ国際環境映画祭特別賞、アースビジョン審査員賞などを受賞する。

◇スタッフ

ブッダ・マウンテン

生きること 生きていることを考える

鈴木一 ディストリビューター

2010年東京国際映画祭最優秀芸術貢献賞、最優秀女優賞を受賞して、彗星のごとく世界の映画シーンに登場した本作の若手女性監督・李玉は、前作『苹果』(07)が、ベルリン国際映画祭のコンペ部門に正式出品され世界の映画祭関係者に注目された。その卓越した演出力は、すでに長編第1作『今年夏天』(01)がベネチア国際映画祭 ELVIRA NOTORI PRIZE賞、ベルリン国際映画祭最優秀アジア映画賞を受賞し認められていた。続く『紅顔』(05)もベネチア国際映画祭 CICAIE賞を受賞している。

にいたる話である。...
◇スタッフ
監督・脚本:リー・ユー
製作総指揮、脚本:ファン・リー
撮影:ツァン・ジェン
◇キャスト
チャン・ユエチン/シルヴィア・チャン
ナン・ファン/ファン・ピンピン
ディン・ポー/チェン・ポーリン
◇



リー・ユー監督

物語の縦糸は、老境に入った元京劇スター、チャン・ユエチンが絶望的な日常から、3人の若者とのふれあいと神秘的な観音山(ブッダ・マウンテン)での作業を通じて、心癒され、安寧の境地

1973年、中国山東省青島市生まれ。大学卒業後、テレビのドキュメンタリー番組を制作するかたわら脚本を執筆。2001年、監督デビュー作『今年夏天』がベネチア国際映画祭、ベルリン国際映画祭に出品され、高評価を受ける。05年『紅顔』、07年『苹果』を発表。3作目となる本作で第23

ヘアdresser The Hairdresser

「ヘアdresser」社会的弱者の逆襲 あきらめない気持ち

瀬川裕司 明治大学教授 映画学

ドリス・デリエは、わが国で10本以上の監督作が紹介されている数少ないドイツ人映画作家の一人である。喜劇的色彩が強い作品を撮ることが多いが、96年に夫が死亡してからは、<生と死>が創作の大きなテーマとなっているようだ。デリエが東洋、とりわけ日本の文化に傾倒しており、このところ日本で撮った作品、あるいは日本に関係の深い作品が続いたことはよく知られているだろう。『ヘアdresser』は、デリエがはじめて脚本執筆を他者にまかせた作品であるが、社会的弱者の葛藤、「あきらめない気持ち」を描くのは、その監督がもっとも得意とするところである。...

◇スタッフ
監督:ドリス・デリエ
製作:ウルリッヒ・リマー



1955年、ハノーヴァー生まれ。ミュンヘンテレビ映画大学を卒業後、83年『心の中で』で長編監督デビュー。85年『メン』で大きな注目を浴び、以後『パラダイス』(86)『ミー&ヒム』(89)『愛され作戦』(94)『アム・アイ・ビューティフル?』(98)を発表。禅をテーマにした『MON-ZEN「もんぜん」』(99)より日本に目を向け、『漁師と妻』(05)『HANAMI』(08)を日本で撮影している。作家、オペラ演出家としても活躍。

震災被災地支援

一階交流サロンで開催中

青森県: 気になる味比べセット



秋田県: 小川の稲庭うどん詰め合わせ



中北薬品株式会社

豊田通商株式会社